

ごみ減量・リサイクルは環境に配慮した取り組みの第一歩です。

エコにこショップ 環境配慮型店舗・エコにこオフィス 環境配慮型事業所



環境配慮型店舗
エコにこショップ
仙台市環境配慮型店舗・事業所認定委員会

環境活動レポート

3R事例集

Vol.3



環境配慮型事業所
エコにこオフィス
仙台市環境配慮型店舗・事業所認定委員会

仙台市では、環境負荷が低減される循環型社会の構築をめざし、「100万人のごみ減量大作戦」を展開しております。その一環として、ごみ減量・リサイクルなど環境に配慮した事業活動を行っている店舗・事業所を「エコにこショップ」「エコにこオフィス」として認定し、支援しています。

この事例集は、認定事業所の中から特徴的、先進的な活動を取り上げて紹介したものです。ちょっとした工夫で、みなさんの事業所でもすぐに実行できるような事例を集めてみました。ぜひ、ご活用ください。



できることから始めてステップアップ

～考えてばかりではなく、まずは行動！が成功のカギ～

荒岩商事株式会社

【小売業】

荒岩商事は、クリスロード(旧中央通り)に面する生活雑貨店「荒岩本店」と英国式リフレクソロジーサロン「クアハート」を展開しています。

荒岩本店では、間伐材を利用したマイ箸や、洗って繰り返し使えるシリコン製のお弁当用カップなど、独自の環境基準(6項目)を定め、3項目以上に当てはまる商品を「荒岩 eco おすすめ品」として、オリジナルのマークを付けて販売しています。限られたスペースの中で「荒岩 eco おすすめ品」を目立たせるために、スタッフ全員で考えたマークです。また、購入した調理器具等を長く活用して頂けるように、料理教室、ハーブやアロマセラピーの体験教室を実施しています。

クアハートでは、商品の品質低下によるロスを避けるため、毎回使い切れる量だけを仕入れるように管理を徹底しています。

お客様の視点で地球に優しいお店づくりを心がけていますが、「まずは社員が環境に対する問題意識を持ち、解決していくための知識を持たなければな

らない」と、みちのくEMSの認証取得を目指し、地球環境へ配慮した取り組みを始めました。

当初は専門用語が分かりにくく、様々な書類作成等に時間を要し、取得までの過程は容易ではありませんでしたが、机上の計画だけでなく、実践による試行錯誤を繰り返したことで、少しずつステップアップを図ることが出来ました。

例えば、廃棄物分別のチェックを週番制にして分別に関するノウハウを社員全員に徹底するほか、休憩室に連絡ノートを備えて問題点などを共有し、ミーティングなどで解決策を検討しています。また、環境にかかる負荷を常に意識し、お客様にも簡易包装などに対する理解を深めて頂くよう努力しています。

現在は、ホームページでも取り組みの内容を発信しており、同じような規模のお店からの問い合わせや、「参考になる」といった声が多く寄せられています。

担当者の声

「店舗の立ち並ぶ中央地区は、事業ごみが多く排出される土地柄で、分別に関して当初はかなり大雑把でした。今後は他の店舗も一緒に、地域ぐるみで環境への取り組みができれば嬉しいです」

(荒井副社長 [写真右]と環境担当の畑中さん)



▲eco おすすめ品表示(マイ箸)



▲eco おすすめ品表示(お弁当用カップ)



▲バックヤードのリサイクルコーナー

連絡先：TEL 022-222-5466(荒岩本店)

平成21年4月

本書の一部あるいは全部を無断で複製・転載することを禁じます。



顧客とつくる環境に優しい商品

～作り手として伝えたいことをパタフライマークに託して～

株式会社 ソノベ 仙台工場
【製造業】

株式会社ソノベは、県内唯一の水なし印刷を実施しています。水なし印刷とは、有害な現像廃液の使用抑制と廃液を出さない方式を用いた印刷方法です。

現像（刷版）工程で使用される現像廃液には環境汚染物質の強アルカリが、湿し水には酸度の高い溶水やアルコールが配合されており、これらを使用しないことで、環境に配慮した印刷物が出来上がるのです。水なし印刷で出来上がった印刷物には、パタフライマークが記されます。

印刷業として、紙面の品質低下を招くことなく、顧客のリクエストにも応じなければならないという状況にあっても、水なし印刷を取り入れたことで、環境に配慮しながら、きれいな印刷も可能になりました。

また、業務で発生する廃棄物は、有価物として業者委託し全てリサイクルしています。

製品だけでなく、社員の環境配慮に対する取組みも実施しています。きつ

かけは平成16年に取得したISO14001の準備でした。当初は社員の意識付けが難しかったため、管理職から理解を深める作戦を講じました。

独自の環境配慮学習ツールの一つとして、アニメ入りの解説書を用いて全社環境教育と行うとともに、管理職より「今日の地球の惨状と、この惨状をくい止めるべく、社として何ができるか」といった環境教育も行います。認識・自覚を維持させるために、2年おきにテストも実施しています。

また、オリジナルのシステムで各セクションから寄せられた進捗状況などをデータベース化し、社員に公開しています。このデータベースは、ペーパーレス化の一端を担っています。



▲水なし印刷用機械



▲従業員用有価物の徹底排出フロー

担当者の声

「今後は社会を形成する一員として、会社がどのように環境活動に貢献していけるかを考えていきたい」(箱崎部長)



連絡先：TEL 022-392-6611



人生の先輩方から教わる 3R の基本

～もったいない精神を原点に～

軽費老人ホームB型青葉ハイツ
【医療・福祉】

軽費老人ホームB型青葉ハイツは、自炊のできる高齢者向けホームで、現在43名が入居しています。

入居者は施設側で購入したごみ袋やポリバケツに、各自分別して廃棄しています。

分別ルールは、共通の掲示コーナーに分け方を示し、年に3回程度開催される懇談会で職員が実践形式で説明しています。最初は分別(特にプラスチック製容器包装)が難しく感じる入居者もおりますが、入居者同士で教えあうなど、コミュニティ形成の一環にもなっています。

入居者が退去する際に、不用になった家具や本などを無償で提供してくるケースが非常に多いのも特徴です。「次の入居者や施設のために」と寄せ

られた家具類は、施設の娯楽室や、関連施設などで使用されています。

当初は入居者“顧客”に対して、排出のルールを遵守してもらうことは難しいのではないかと考えていましたが、「もったいない」「物を大切にする」精神が根付いている世代の方たちです。抵抗なく取り組んでいただいています。



▲退去者から寄贈された書棚と書籍類



▲掲示板を利用して分別について告知



▲分類された入居者用ごみ箱

担当者の声

「入居者の方は物を無駄にしない、大切に長く使うといった習慣が根付いているので、係員が助言されたり気づかされたりすることも多く勉強になります」(寮父の柏木さん)



連絡先：TEL 022-265-6551



社員一同、楽しみながらエコを実践

～見やすく・分かりやすく・取り組みやすく～

株式会社 オンワード樺山
仙台支店【卸売・小売業】

オンワード樺山仙台支店は、平成19年10月にISO14001を取得しました。自社ビルは夜間蓄熱や二重窓など、環境に配慮した構造になっています。

事務室では書類のペーパーレス化を図るため、電子文書の利用推進を始めました。併せてキャビネを撤去することで、無駄な紙資料を保管しなくなり、一層紙類が削減されました。

また、無駄なコピーを防ぐため、コピー機の利用は社員IDを利用し、個人の使用量の履歴管理を実施しました。さらに、フロア毎当番制で夕方5時にごみの計量を実施し、結果を公表したことで、過剰使用の歯止めに大変効果がありました。

中層階に位置する倉庫では、店頭への商品発送と一緒に書類を送ったり、店舗への商品発送にダンボールではなく折りたたみコンテナでのピストン輸送を実施したりと、輸送エネルギーや余分な紙類の軽減にも配慮しています。

社員共通では、「水曜日は残業しない」「土曜日は事務所ではなく店舗へ！」というエコデーを設けているほか、「2UP3DOWN運動」と称して、2階上と3階下のフロアまではエレベーターを使わないようにといったユニークな取組みも実施しています。さらに、水洗いのできるスーツなど、生地メーカーと共同で環境に配慮した製品を開発しています。

環境活動の取り組みの導入当初は、最初からアレルギーを起こされては困ると思い、全社員向けに配布する環境配慮教育用の冊子に図説や色を取り入れてわかりやすくしたり、各フロアの分別ステーションにある掲示板も目を引くように作ったりと、「社員がいかに楽しんで実践できるか」を念頭において工夫しました。



▲わかりやすいリサイクルコーナーの分別表



▲商品発送用折りたたみコンテナ



▲エレベーターの脇には「2UP3DOWN運動」の表示

連絡先：TEL 022-262-8411

担当者の声

「導入当初は社員への意識の植え付けが大変でした。特にベテランの男性社員に理解を得るまでは骨を折りました。今後はいかに現状維持できるか、新たに取り組むべきことは何かを検討することが課題です」(総務課 結城さん[写真右]と古藤課長[中央]と小黑さん)





店内のいたるところで環境配慮しています

～おなじみの商品も生まれ変わっています～

株式会社アレフ
びっくりドンキー中倉店
【飲食店】

株式会社アレフびっくりドンキー中倉店は、平成19年にオープンしました。全社を挙げてごみを減らし、資源を再び生かすリサイクルを実施し、レストランならではの取組みを展開しています。

紙ナプキンの原料は、パルプの代わりにサトウキビの搾りかす(バガス)を50%使用しています。さらに六つ折りから四つ折りにすることで、紙の使用量を3分の2に減らしています。

おなじみの木製ディッシュ(皿)は、役割を終えた果樹園の廃木を素材にしています。古くなって傷が目立ってきたときは、磨きなおして再利用します。割れた陶食器は独自の工場に回収され、原料の粘土と混合して小鉢などに再商品化されます。

客用箸は理解をいただいた上でリターナブル箸を提供しています。リターナブル箸は、約1000回程度使用後、固形燃料などにリサイクルされます。

担当者の声

「環境行動というと、当初はあまりピンと来なかったのですが、次代を担う子どもたちが住み良い環境、住み良い地球を残すために、今、自分たちは何をしなければならぬのかと考えると、自然に取り組みるものだと思います」(松尾店長)



▲たい肥システム



▲リターナブル箸コーナー



▲雨水タンク

連絡先：TEL 022-782-3901



次代を担うものづくり・人づくり

～地域貢献を通して広くエコを広める～

アサヒビール株式会社
東北統括本部【製造業】

アサヒビール東北総括本部では、全社挙げての環境マネジメント体制「Asahi way」のもと、社内外の様々な人々とのコミュニケーションを通じて、社会全体での環境負荷低減に取り組んでいます。

工場内でのビール類の生産に伴う廃棄物・副産物については、2002年度に再資源化率100%を達成し、容器包装などの3Rも徹底されています。現在は営業拠点やオフィスにもこういった取組みが拡大されています。

CSRやコンプライアンスの研修時に、全社員向けのeラーニングや座学を実施し、社員の認識付けを行い、紙類の使用抑制や、資源物の徹底分別・リサイクルなどを実施しています。

イベントで使用するパネルなどの販売促進物を、再生紙や使用後にリサイクルできる紙やプラ素材を利用したり、年度をいれずに作成し繰り返し利用

担当者の声

社員には「環境のために」ではなく、日常行動パターンの一つとして、「当たり前」という風土を作りたいです」(総務部 有馬さん)



できるようにしたりするなどの工夫が施されています。

一方で住民を対象にした環境配慮の啓発にも意欲的に取り組んでいます。

東北地方の高校生を対象に、地元資源を使った環境問題解決スキームを考える「若武者育成塾」や、施設の子どもたちを対象に「キッズプロジェクト」を展開するなど、様々なイベントの開催を通じて、地球の未来を担う子どもたちに、地球環境問題への理解を深め、共に考える機会を与えています。



▲資源物の分別が一目でわかるリサイクルコーナー



▲ペットボトル回収庫付近では、ラベルをはがす道具を常備

連絡先：TEL 022-261-2212



「リサイクルは当たり前」地域とつくるエコの輪

～ちょっとした呼びかけで多くの資源物を回収～

ヤマザワ泉ヶ丘店
【スーパー】

ヤマザワ泉ヶ丘店は、容器の店頭回収制度を実施しており、お客様の多くがこの制度を利用しています。

平成3年5月の牛乳パックの回収から始め、順次品目を拡大してきました。牛乳パックは、現在1日に140kgほど回収しています。回収後、製紙会社でトレイレットペーパーに再生され、店舗に商品として陳列します。

トレー類に至っては、1日の回収量が200kgを超えることもあります。

アルミ缶については、10個投入すると5円還元される「アルミ缶ポスト」を平成19年12月より導入しています。子どもたちからも人気があり、リサイクルの動機付けの一環になっているのではないかと思います。

担当者の声

「地域と共同で主だった活動こそしていませんが、主な利用者である近隣住民による資源物の持ち込みはだいたい定着しており、環境に対する意識の高さを実感しています。店舗からの呼びかけが、そのきっかけになったのではないかと感じています」(相澤店長)



食品の残渣は委託業者によって回収し、魚のあらは魚の餌にされ、その他の生ごみはたい肥化されます。

また、レジ袋削減のために、平成7年からスタンプカードなどを導入したマイバッグ持参運動を開始し、平成21年2月2日からは、有償提供を実施しています。商品の持ち帰りのための段ボール箱の無償提供も実施しています。



▲店頭容器回収コーナー



▲段ボール箱の提供



▲アルミ缶ポスト

連絡先：TEL 022-372-3211



ケースデンキ仙台西店は、新製品が次々と市場に出回り多様化する中、お客様の立場に立って、そのニーズにあった商品を共に検討し、アドバイスを行っています。

オリジナルキャラクターの「省エネ王子」を活用し、商品やパネルに省エネ性能や売り上げランクを分かりやすく表示しています。こうすることで、その商品がどのぐらい地球環境とお財布に優しいかを一目瞭然と比較検討できるようになります。さらに「省エネハンドブック」には、環境配慮の着眼点などを併せて掲載しています。

一方で、店舗敷地内には不要になった電化製品の買取り店や修理専門店の3店舗を設置しています。買い替えを検討している顧客に対し、現在使用している電化製品の状態を聞き、まだ使用できるものについては、不用品の売り払いや修理をして再利用を勧めるなど、新製品の販売だけで完結せず、

3Rを意識した店舗作りを意識しています。

比較的用户の少ない平日の日中は、ディスプレイ用テレビの3分の1の電源を切ったり、お客様の理解・同意を求めた上で簡易包装を実施しています。

また、社員間では、会社を挙げて省エネ推進体制を展開しています。各店の副店長がリーダーとなり、販売部門毎に委員を配置し、省エネ製品に対する知識の向上とともに、業務上で発生する資源物の分別や使用抑制などに取り組んでいます。さらに、全社員に環境学習用のテキストを配り、内容の理解度を確認するためテストを実施。社員は商品を取り扱う意識を持つという自覚を持ち、熱心に取り組んでいます。

担当者の声

「5年後、10年後にも「買って良かった」と言われる商品の提供を目指しています」
(相馬副店長)



連絡先：TEL 022-303-2880



▲平日のディスプレイ用テレビ
(3分の1の電源をオフ)



▲商品に表示された省エネの表示



▲選び方のアドバイスを
パネルに表示

仙台市内の事業者のみなさまへ

申請
無料

エコにこショップ・エコにこオフィスを
募集します。

ごみ減量・リサイクルに取り組む環境にやさしい店舗「エコにこショップ」や、事業所「エコにこオフィス」を募集しています。ごみ減量などの10項目の取り組みのうち、4項目以上の活動を行っている事業者のみなさんはぜひ、認定申請をしましょう。

認定を受けると、仙台市ごみ減量・リサイクル総合サイト「ワケルネット」で紹介するほか、仙台市の各種広報でPRをいたします。

Step1

認定申請

所定の申請書を手入(申請書はワケルネットからもダウンロード可)
環境配慮型店舗・事業所認定委員会へ提出(申請書随時受付/郵送可)

Step2

認定審査

環境配慮型店舗・事業所認定委員会での審査(委員会は年5回程度開催)
認定期間は3年間

Step3

認定広報

委員会より認定証とシンボルマーク入りステッカーを送付
ステッカー等の掲出(マーク画像を名刺等に印刷可)

仙台市環境配慮型店舗・事業所認定委員会事務局

(仙台市環境局リサイクル推進課内)

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17 小田急仙台ビル10F

TEL 022-214-8230 FAX 022-214-8840

ワケルネット ▶▶ <http://www.gomi100.com>